

学生の進路選択及び心身の健康等に係わる支援

< 総合環境学部 >

◎フィールド自然学科

・一人一人の顔が見える大学

少人数教育を中心にして、学生一人ひとりにあったカリキュラムが選択できます。

・地域に根ざした大学

愛媛県と提携し、地元企業との関係を重視しています。

・基礎ゼミナール

フィールド自然学科1年次の「基礎ゼミナール I」では8～9名程度のグループ編成で、学科各教員の研究紹介を中心に、大学で必要とするスキルの養成をおこないます。レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など具体的に指導しています。また、2年次の「基礎ゼミナール II」では、学生を3グループに分け、本学科の3フィールド（陸域・水域・農業）でのフィールドワークの紹介・リスク管理などについて野外実習を含めて指導します。

・メンター

各教員は1年次はじめに分けられたメンター班学生のメンターとして履修指導や生活面でのサポートをしています。

・演習（2年次、3年次、4年次）

フィールド自然学科の2年次では、いずれかのフィールドへの仮分属を行います。フィールド自然学科の3年次では、フィールドの本分属が確定し、卒業論文・卒業研究にむけての準備作業がはじまります。フィールド自然学科の4年次は、いずれかの教員の研究室に配属され、3年間で学んだことを卒業論文や卒業研究としてまとめていきます。

・オリエンテーション

入学式のあと行われるオリエンテーションならびに合宿をとおして教員からのアドバイスを受けながら、初年度の履修計画を具体的に作成します。

・学生相談

1. 教員による学生生活に対する相談

大学生活で困ったこと、友人関係などで問題が発生したときには、メンター教員と相談することができます。

2. 専門のカウンセラーによる相談

臨床心理士によるカウンセリングを受けることもできます。カウンセラーの相談は水曜日の午後となります。

・就職・進路について

1. 専任職員による就職・進路相談

キャリア支援課がサポートします。

2. 人間力を備えた企業人の育成

人間力を高めるため、様々なガイダンスを実施し、社会を構成し運営する力や、自立した力を伸ばしていきます。また、個別面談をとおし「個」を重視したサポート体制をとっています。

3. 個別指導

人間環境大学では、1年次の段階から徹底的な個別指導によって学生本人の希望・適性に合った就職を支援しています。

◎環境情報学科

・学びの特色

1. 情報×環境の融合カリキュラム

環境情報学科では、プログラミング、Web技術、データベース、ソフトウェア工学といったITの基盤分野を、バランスよく十分な時間をかけて学べるようにしています。

2. 多時間・少人数制授業

特にプログラミング分野では、他大学よりも多めに授業時間を確保し、1クラス20名程度の少人数体制で丁寧に指導しています。

3. 演習主体の学修スタイル

講義中心ではなく、学んだ知識を即座に実践できる演習形式を取り入れ、「学ぶ → 作る → 検証する」のサイクルを重視しています。

4. 充実した開発環境と自由創作スペース

授業時間外でも利用できる「ゼミスタジオ（フリーワーキングスペース）」を整備し、ノートPCやモニター、ホワイトボードを活用してソフトウェア開発や作品制作、共同開発を進められるようにしています。

5. 文系・理系を問わない学びの体制

文理融合型の学科として、理系出身でなくても情報技術を学びやすい構成にしています。

・学生支援体制

1. 担任教員制度（メンター制度）

各学年に担当教員を配置し、履修・生活・進路に関する相談に対応しています。環境情報学科では1学年あたり約5名の少人数を担当しています。

2. 授業サポート・補習制度

プログラミングやデータ処理の理解が難しい学生に対しては、授業外で補講や質問対応を行い、学修をフォローしています。

3. 学生相談・メンタルケア

学科教員による日常的な相談に加え、大学全体の学生相談窓口や専門カウンセラーによる支援を受けられるようにしています。

4. 交流・学習コミュニティ

プロジェクト型演習や共同開発活動を通して、学生同士の交流を深め、学びのネットワークを広げられるようにしています。

・就職・進路支援

1. キャリア支援室による個別相談

IT企業、ソフトウェア開発、公務員技術職、企業システム部門など、多様な進路に対応できるようにし、早期からキャリア相談を受けられるようにしています。

・保護者との情報共有

年1回、学科の取り組みを保護者に共有した後、メンター教員との面談を実施し、学生の学びと生活に安心を提供しています。